

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	①高齢者の人権を尊重する②高齢者の立場に立ち、共感的態度で接する③高齢者が安心感、信頼感が得られるよう接遇の基本を守り対応する④限りある資源を大切にマネジメントする。を法人の理念とし、事業所独自の目標を職員全体で会議において検討し、共有している。	○ 「地域」の中に根ざしたサービス機関として、活躍できるよう、取組んで生きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員に配布され、日々の業務に反映するように意識付けている。	○ 今後も継続していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年二回の機関紙や定期的な交流を通じ理解してもらえるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人々とは気軽に声を掛け合ったりしている。気楽に立ち寄ってもらえるような関わりが出来ていないが、小さな子供が時折、自転車でホームの前に遊びに来る。	○ 気軽に声を掛け合えるよう、交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会の運動会に参加させて頂いている。隣接の保育所の子供が毎月定期的に来所している。毎年秋には、だんじり見学ができるよう、施設前に立ち寄って頂いている。	○ 参加の場を広げていくように自治会との連携を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を定期的に開催し、意見交換や地域活動(小中学校生登下校時の見守り運動等)を実施している。	○	当自治会より勤務している職員がいるので、自治会議などで協力できることがあれば、取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価・結果を全職員に伝え、改善に取り組んでいる。	○	評価結果は全職員に伝え、改善点においては検討し、前職員協力の上、取組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議において報告話し合いを行っている。	○	災害時・緊急時の対応や自己防止策。避難地域等の検討等の意見交換を行い、地域とともに救命救急の実施や検討を行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所だけの検討で困難な時や事故報告等、今後の検討課題があれば相談している。	○	市町村と連携深める機会に積極的に参加していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などには出席しているが、全体には行き渡っていない。	○	家族や関係者との話し合い立ち会いを行い、支援を行う。研修会等と通じ、理解を深めスムーズに活用できるよう支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などには参加している。	○	定期的に研修し、防止に努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な時間を取り、不安や疑問に思っている事を納得して頂けるまで説明している。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の不満・苦情に対しては傾聴し、連絡ノートや申し送りにおいて周知し、対応している。苦情受け付け箱や第三者委員会を設置している。	○ 不満・苦情を真摯に受け止め、すばやく解消できるように努めていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月写真を添えて生活状況を手紙にし、金銭に関しては出納帳のコピーにて報告している。また、面会に来られた際にも報告している。	○ 健康状態の変化や特に悪化が予想される場合は素早く報告し、主治医や管理者が個別に時間を設けている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情解決第三者委員会を設置している。苦情・意見等があった場合は、職員間で話し合い、改善していくように努めている。	○ 不満・苦情を真摯に受け止め、すばやく解消できるように努めていく。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議を毎月1回実施している。事前に職員からの意見や提案を議題にあげ、意見交換を行っている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状況変化に伴い、勤務調整に努めている。	○ 必要時、管理者と相談し、職員と話し合いの上、勤務調整を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する際は、利用者に少しでも早く慣れていただくために、自己紹介を兼ねて、接する時間を多くとり、馴染んでいただけるように努力している。	○	離職の希望が職員から出された時は、原因等を聞き、改善できる点があれば配慮し、定着してもらえよう努めている。入所者から離職職員に対することを聞かれた場合は混乱しないように説明している。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、毎月1回研修日を設けており、様々な分野での研修を実施している。また、月2回介護福祉士の試験対策講座も実施している。	○	法人内・外の研修案内の情報を今後も拡大していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームの行事に参加したり、中地区・堺市全体のグループホームの会に出席し、意見交換・相互訪問等を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に親睦会をったり、相談しやすい環境づくりに努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員全員が委員会などの役割を持ち、行事を実施したり、業務対応する取り組みを行っている。資格取得等にも前向きに取り組む、研修参加者には調整を行い柔軟に対応している。	○	研修案内が送付されてきた時は、閲覧し、優先的に参加できるように休日調整を行い、参加できなかった職員には伝達講習にて伝えることができるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に面接し、話しやすい雰囲気にならめ、丁寧な接遇で安心感を与えるように留意している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に対しても、要望の把握と信頼関係の構築ができるよう努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの特性や利用状況・本人の身体状況・生活状況を加味した上で十分説明を行い、対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学やショートステイの利用をしていただき、実生活をご理解いただいた上で検討・相談をしている。	○ ショートステイで生活を体験していただき、問題なく慣れ親しんでいただけるよう工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	接遇の基本を守りながら、人生の先輩であるため様々な事を学んだり、テレビを一緒にみて笑い、散歩をしたりなど、コミュニケーションをしっかりと取り普段の生活の中から自然と行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を月1回新聞にて担当者が報告をしたり、面会時にご要望を聞いたりして双方に情報交換を行い、一緒に考えることができる関係が築けるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	手紙や行事案内面会により関わりを促し、面会時はゆったり過ごして頂けるように、プライバシーの確保にも努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容室に出かけたり、外出したりしている。	○	職員、家族や知人の協力を得て、馴染みの美容室に出かけたり、スーパーなどへ外出したりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	交流の場を定期的に設け、また孤立しがちな利用者には職員が間に入り、円滑に交流できるよう配慮している。	○	ふれあいを大切にし、様々な交流機会を設ける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても必要な情報を伝達したり、必要に応じて相談や他のサービスにつながるような支援をしている。	○	サービスが終了後も継続的な関わりを必要とする要望があれば、柔軟に対応していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中からさりげなく希望や意向を把握し対応している。本人の状態に応じ、日中の過ごし方を職員間で連携し対応している。	○	本人の意思を尊重し、出来る限り利用者本位に対応できるよう努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居される方には入居時にこれまでの経過を本人・家族より聞き、把握している。また、日々のコミュニケーションからも情報収集に努めている。	○	すでに入居されている方には、センター方式を活用し、情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態に変化など介護記録に記入し、申し送り情報で共有し、職員間で把握できるように努める。	○	日々の生活の中で、少しの変化を見逃さないように個々職員が意識し、情報が共有できるように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には日々の関わりの中から情報収集し、その方の立場に立った計画とし、モニタリングやカンファレンスにおいて意見交換を行っている。	○	ご本人の意向をまず第一に優先し、その人らしく暮らせることを目標に計画を作成を行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議、3か月毎モニタリング、6か月毎のカンファレンスにより検討し、また日々の状態変化に応じ作成している。	○	状態の変化が著しい時には、速やかに的確な情報収集の基、計画作成を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人介護記録に記入し、見直しの参考にしている。	○	日々のサービス内容やモニタリング記録をチェックし、全ての職員が共有できるよう努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身の状況に応じて、業務を変更している。	○	事業所内において、様々な変化に対応できるように予測し、常に対応できるよう職員の意識付けを大切にする。また、同一法人内における他施設の紹介・見学等を希望があれば随時行う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回、隣接している保育園児の訪問・ボランティアの訪問があり、協力して頂いている。	○	消防訓練には消防署立会いの下、消火器の使い方や散水指導を受けている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて家族や医師との相談のうえ、訪問リハビリを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事故・相談・生活管理等については、包括支援センター及び市町村の地域福祉課、保健センターとの協働で随時、相談援助を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を十分に尊重し、週一回および必要時に往診を受けている。また、入所以前から継続的に通院されている方には、情報提供を行っている。	○	緊急時や突発的な状態変化に対応できるよう努め、定期的な連携を図る。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な専門医の往診により、状態を報告し相談している。	○	緊急時や突発的な状態変化に対応できるよう努め、定期的な連携を図る。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の看護師へ連絡・報告・相談を行い、連携を密にしている。	○	緊急時や突発的な状態変化に対応できるよう努め、定期的な連携を図る。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時はお見舞いに行き、少しでも安心して頂きながら、関係者との情報交換により早期退院できるよう努めている。	○	入院時、医療機関と心身の状況の情報交換や相談を行い、退院後スムーズに生活出来る様連携を図る。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化すると予測される利用者については、医師を交えて話し合い、家族の意向を確認の上、方針を共有している。	○	家族の意向・医師の説明を十分話し合い、方針を共有し、出来る限り支援できる体制作りをしていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医には定期的な受診を行い、施設でできる範囲の理解は得られている。終末期には、夜間でも連絡が取れるように協力を得ている。	○	主治医との話し合いの際、できる事、できない事を明確にし、希望に応じて支援の取り組み方を検討している。急変に備えて日々、準備・報告を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いや情報交換の場を設け、本人への声掛けや家族への助言を行い、ダメージが最小限に抑えられるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時は声掛けを工夫するなどのプライバシーが損なわれないよう配慮し、また職員間の話し合いも利用者の前では行わないよう努めている。	○	職員全体が徹底し、利用者の尊厳が確保できるよう努めなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活において本人の行動や会話から残存機能を見出し、その能力が十分に活かせるように配慮し、また意向を自己表出できるよう信頼関係の構築に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールの中でも一人ひとりのペースを大切にし、その日の心身状態を配慮しながら支援している。	○	外出や買い物の希望があれば、家族の協力を得ながら、柔軟に対応していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば、訪問の散髪を利用して頂く。好みの髪型にしてもらったり、その日の洋服を選び着て頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時の食器の準備や片付けは本人の持てる力や好みに合わせて手伝ってもらっている。	○	食事を楽しんでいただける工夫をし、準備から片づけまで、協力して行える体制作りをしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、疾病等の制限がない限り、状況に合わせて日常的に楽しめるようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表によりパターンを把握しながら、行動や様子観察し声掛け誘導を行っている。	○	羞恥心に留意し、排泄パターンを把握し、支援を継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	共同生活である為、時間帯は大まかに決めてあるが、入浴については、体調や希望に合わせて行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はレクや散歩・家事をしていただき、安眠出来る様に支援している。昼食後は本人のペースで過ごせる様、ゆったり休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の様子を観察し、カラオケや習字・編み物や裁縫、ビデオ鑑賞等、気分転換出来る様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いに関しては、本人と家族の意向を確認のうえ、対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴・散歩、地域行事への参加・外食などの企画を行い、支援している。家族の方には、外泊や買い物など協力して頂いている。	○	気候の良い時は、外出できる機会をつくり、家族・知人等の協力を得ながら、外出できるよう支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春秋の花見・紅葉狩りや遠足・外食などの企画を行い、支援している。家族や親類との外出については自由に行っていただき、気分転換が図れる様支援している。	○	家族の協力が得られる場合は、制限なく外出して頂けるようにしている。その他に関しては、気候の良い時に、昼食・おやつ等を持参して出かけられる機会を設ける。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話・施設内の公衆電話の利用や本人宛にかかってくる電話等の取次ぎを行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽の訪問できるように、面会時間等は設けておらず、来て頂いた時は居室等で、ゆったり過ごしていただけるよう、空調等の配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修会を開催し、ケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	利用者が外出の希望や様子に気付いた時は、速やかに対応し、一緒により添えるゆとりを持っていきたい。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	事故再発防止のための検討会を行い、ひやりはつと・事故報告書をもとに、危機管理意識の構築と、状況判断を行いながら、再発防止に努めていく。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	緊急時対応マニュアルをもとに、利用者の急変時や事故発生時に速やかに対応できるよう、訓練を継続していく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話連絡等により、心身・生活状況を報告した上で想定できるリスクについては説明し、できる限り抑圧感のない対応策を検討し、家族の意向・要望等も確認した上でやっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子と変わらないか常に意識をしながら観察し、異変を発見した時は、職員間で情報を共有し、速やかに看護師・医師に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服管理表を活用し、回覧の徹底を行い、事故防止に努めている。	○	始めて処方された薬がある時は特記事項に記入し、職員間で情報を共有し、変化等に配慮している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操など適度な運動と小まめに水分摂取を促している。	○	便秘には職員間で情報を共有し、医療との連携を図り対応継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医、歯科衛生士より、週1回のペースで口腔ケアを実施している。他にも義歯使用者には週1回 [※] リデントを行うなどの支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェックリストを記入している。咀嚼しない方や嚥下困難の方には、食事形態を検討し、提供している。特に摂取量が少ない方に対しては、栄養補助食品も提供している。	○	栄養摂取量が極端に少ない人には、医師や家族とも連携をしっかりと取り、対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で感染防止委員会を設置し、感染症に対するマニュアルを作成している。また研修会を通じ対応出来るよう努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、布巾・包丁・まな板を熱湯消毒し、夕方には、ハイター除菌や天日干しをしている。賞味期限の確認・飲食前には手指及びテーブルの洗浄・消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや裏庭には季節ごとに花を植えたり、玄関には解りやすいように季節にちなんだプレートをぶら下げている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と食堂には入居者の取り組んだ塗り絵のカレンダーや製作物を貼り、食堂テーブルには季節の花を飾っている。また、食材にも配慮し季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置いたり、フロアーや廊下にソファを置き、いつでも談話したり、くつろげる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	愛用品や馴染みの品物を持ち込み、写真や花、家 具を置いて、居心地よく過ごして頂けるよう努め ている。	○	ほとんど持ち込まない方もいるので、アセスマ ントをしっかり行い、本人の部屋であると認識が でき、心地よい空間づくりに努めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	適宜、居室・デイルーム・浴室については換気 を行っている。トイレについては24時間換気を行 っている。	○	利用者の快適さを重視し、個別にて対応してい く。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロアは全面バリアフリーになっており、共有 スペースであるトイレ、風呂、廊下には手すりを 設置している。車いすの方でも自走できるスペ ースの確保はできている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	家庭的な雰囲気壊さず、トイレや部屋に目印を 付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	建物の外周は散歩に利用している。外回りには ジャガイモやサツマイモを栽培し、収穫を毎年 楽しんでいる。	○	花壇の花の種類を増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節感を感じるために、壁画や外気浴等の機会を増やしている。出来る限り、役割や意欲が向上できるように、様々な取り組みや交流機会を設け、少しでも日々の生活に楽しさを感じて頂けるよう配慮し、職員や様々な関係者との横のつながりを大切にしながら利用者や家族のニーズに応えることができるよう努力している。